



マップ「記録された日本人『慰安婦』」。アジア各地で「慰安婦」にされた女性が名乗り出て語りだした一方で、その姿が見えない日本人の「慰安婦」。しかし、兵士の手記や公文書などからは、日本軍が侵略したほすすべての地域に日本人「慰安婦」もいたことが見て取れる。

1919年、南洋群島が日本の委任統治領となり、日本政府は1922年、南洋庁をパラオに設置、日本や沖縄から多くの人に移り住んだ。アジア・太平洋戦争中には多くの慰安所が設置され、日本や沖縄出身の「慰安婦」がいたことも分かっているが、その総数や実態は明らかではない。



「慰安婦」にされたことを語る、数少ない日本の女性たちのパネル。続いて、引き揚げ時に日本人女性が受けた性暴力、敗戦後の占領・駐留軍による強かん、そして日本政府が迅速に設置した占領・駐留軍のためにRAAが設置した特殊慰安施設に関するパネルが並ぶ。「慰安婦」被害と同様に女性たちは沈黙を強いられるが、吉武輝子さんなど闘った女性の証言も。

横須賀に最初にできた駐留軍のためのRAAの「安浦ハウス」(写真所蔵:横須賀市市史資料室)。RAAは敗戦直後の8月26日に設立、半年後には閉鎖された。



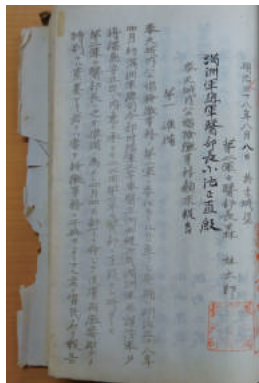
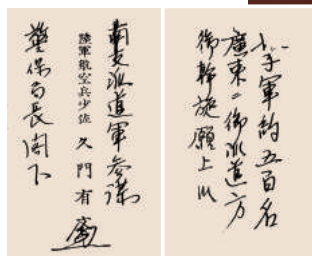
## 主な展示内容

- 年表: 性を管理する国家、日本の歴史～近代公娼制度から戦後まで
- マンガで見る「陸軍が慰安所を制度化するまで」
- 沈黙のかげで～被害を語った日本人の「慰安婦」
- 記録された日本人「慰安婦」～元兵士の手記、公文書、女性たちの語りから
- 外国軍による性暴力～引き揚げ、占領軍とRAA、在日米軍



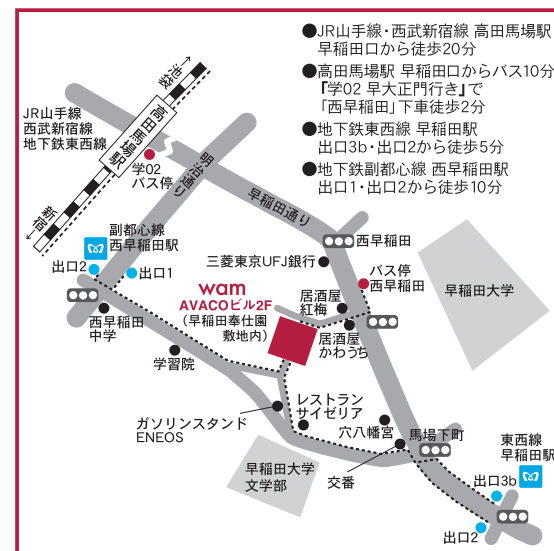
公娼制度の成立、日本軍「慰安婦」制度、日本政府によるRAA(特殊慰安施設協会)の設立、売春防止法施行一年表は、連綿と続く日本国家による性管理の歴史を伝える。中央のマンガは、当時の警察資料などをもとに「陸軍が慰安所を制度化するまで」をわかりやすく再現(マンガ: 杏花)

1939年11月8日付の通課案「南支方面渡航婦女の取扱に関する件」に添付された南支派遣軍古荘部隊参謀の久門有文の名刺。「娘子軍約500名広東に御派遣方御幹旋願上」とのメモ書きがある。



日露戦争期、日本軍はすでに奉天など占領地で性売買管理の制度を作り出し、女性たちの性病検査を軍医が行っていた。写真の「奉天城内公娼検査事務類末報告」(1905年8月8日/陸上自衛隊衛生学校付設史料館「彰古館」所蔵)は当時軍医として従軍した森林太郎(鵜外)による報告。

高麗博物館の企画展「朝鮮料理店・産業『慰安所』と朝鮮の女性たち～埋もれた記憶に光りを～」2017年8月30日-12月28日の期間中は相互来館割引を実施します。



開館時間: 水～日 13:00～18:00

休館日: 月・火・祝日・年末年始

※団体の祝日・時間外のご来館はご相談ください。  
※展示入れ替え期間は休館となります。

入館料: 18歳以上 500円  
18歳未満 300円  
小学生以下 無料

※障がいのある方の付き添いは無料です。

## 会員になりませんか?

- 友の会年会費: 3,000円
- 維持会員年会費: 10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次お知らせします。維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号: 00110-2-579814  
口座名称: 「女たちの戦争と平和人権基金」係

**wam**  
アクティブ・ミュージアム  
女たちの戦争と平和資料館  
women's active museum on war and peace

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F 〒169-0051  
T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E:wam@wam-peace.org  
URL: www.wam-peace.org Twitter: @wam\_peace